



## 咲き満ちて こぼる、花も なかりけり ~高浜虚子~

新しい年度のスタートとなる4月となりました。近畿地方の天気は、日本海側、太平洋側ともに数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いようです。平均気温も比較的高めで、本格的な春の到来が感じられるようです。季節の変わり目となるこの季節。引き続き体調管理には十分気を付けて下さい。

さて、今回の社内報では、ケガの治療の常識となっている「湿潤療法」についてまとめてみました。

### まず水道水で洗い、傷には専用パッドを貼る!

包丁で指を切ったり、肘をすりむいたり、ケガは家庭でも日常茶飯事です。対処法はここ10年で大きく変わりつつあり、傷を乾かさない「湿潤療法」が広まっています。ケガの内容に応じた適切な治療が大切です。



#### 【現在のケガの治療法】

子どもが転んでひざをすりむいた時、赤チン（マーキュロクロム液）などで消毒して表面を乾かし、かさふたができれば一安心。もうこれは時代遅れの対処法です。現在のケガの治療は「消毒しない」、そして「傷を乾かさない」のが一般的になりつつあります。傷ができた時、最初の手当では水道水で軽く洗うことです。「ばい菌対策しなくてもよいの?」と心配な人もいるでしょうが、最新の「形成外科ガイドライン」は、「創傷部の感染予防には水道水による洗浄が有効であり、生理食塩水や消毒液は必ずしも必要ではない」としています。実際に水道水と生理食塩水、消毒液で感染率を比較した複数の研究では、結果に差はなかったそうです。



#### 【野外でケガをした場合】

野外活動でケガをした時は、池や川の水で洗うと感染のリスクがあります。近くに水道水がない場合は、ペットボトルの水で傷口をすすぎましょう。傷を洗ったら止血です。傷に清潔なガーゼやティッシュなどを当て、上からタオルなどで巻き、傷の上から10~15分程度しっかり圧迫するのが効果的とされます。血がにじむ場合もありますが、途中で傷口を確認すると再出血しやすくなるので控えましょう。圧迫して15分経っても血が止まらない場合や、傷にしびれを感じる場合は、形成外科など外科系の診療科の受診が必要です。傷が大きい場合は、圧迫を続けながら救急車を呼びましょう。



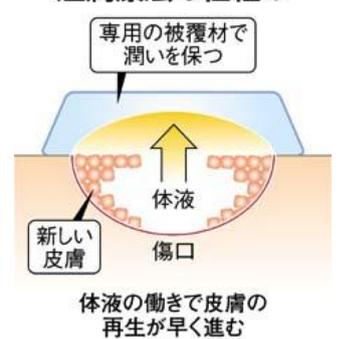
軽症に見えても外科を受診すべきなのが、動物に噛まれた時です。また、土に埋もれた古釘を踏んだり、家庭菜園で土のついた鎌で負傷したりした時も受診しましょう。破傷風の危険性があるため、ワクチン接種が必要になる場合があります。



#### 【湿潤療法の仕組み】

止血後の傷の手当てとして、従来は傷が乾くまでガーゼを当てるのが一般的でした。近年は傷を乾かさない「湿潤療法」が広がっています。傷口から出て来る浸出液が、皮膚を修復する細胞の動きを助けるのだそうです。従来の治療より患部の痛みが小さく、早くきれいに傷が治るそうです。現在外科では傷の大きさや状態に応じて、浸出液を適正に保つ医療用の創傷被覆材が用いられています。

#### 湿潤療法の仕組み



近年、湿潤療法を家庭で行う傷パッドも販売されています。浸出液を保つハイドロコロイドという被覆材を使い、密閉性を高めた商品で、日常の軽度な傷に使用します。傷の大きさに応じた商品が販売されているので、薬箱に何種類か備えておくといいかもしれません。

貼っているうちにパッドが浸出液を吸い、白く盛り上がり来ても問題は無いそうです。ただし、この手当が合わない場合もあり「浸出液が非常に多い」「赤く腫れる」「痛みが増してきた」という場合は使用をやめて、外科を受診しましょう。(日経新聞コラム参照)

#### 湿潤療法のメリット



### 編集後記

日本では4月に年度がスタートしますが、海外では9月始まりの国も多く、また新年は1月なのになぜ、と疑問に思っている方もいらっしゃるかもしれません。日本では1886年(明治19年)に4月を年度始めにすることが定められました。4月になった由来には諸説ありますが、昔の年貢(税金)が米で支払われていたところを、お金の換金して納めるようになったため収穫から時間が必要になったという説や、当時日本が色々な社会システムを真似していたイギリスが4月始まりだったなどの説が有力です。ちなみに海外の学校で9月は始まりが多いのは、子どもが家業を手伝っていた時代に「農作業がひと段落つく頃だった」からと言われています。

